

医学研究科修士課程

履 修 案 内

(教 育 要 項)

2019年度

慶應義塾大学大学院

目 次

2019年度学事日程	2
一般注意事項	
I 学生証（身分証明書）	3
II 掲示板	3
III Web システム	3
IV 諸届・各種証明書	4
V 在学料の納入について	5
VI 学生自習室及びロッカー室の使用について	6
VII 追再試験について	6
VIII 修士論文について	6
IX 学生健康保険互助組合（学生健保）	7
X 保険について	7
XI 緊急時における授業の取り扱いについて	8
履修上の注意	
I 課程修了の要件	9
II 履修科目の選択	9
III 履修申告	10
IV 成績	11
授業時間割表および講義予定表	13
選択必修科目の講義概要	18
医学研究科委員（修士課程）一覧	20
奨学金・奨学融資制度について	24
（巻末）履修申告関連用紙 信濃町キャンパス 講堂・掲示板 配置図	

2019年度大学院医学研究科修士課程学事日程

入学式（於：日吉）	4月 1日（月）
ガイダンス	4月 1日（月）
Web履修申告期間	4月10日（水）～ 4月13日（土）
授業開始	4月 1日（月）
定期健康診断	4月16日（火） 4月17日（水）
開校記念日（休業）	4月23日（火）
夏季休業	8月 1日（木）～ 8月 31日（土）
授業開始	9月 2日（月）
修士論文発表会	10月28日（月）～10月29日（火）
冬季休業	12月30日（月）～ 1月4日（土）
授業開始	1月 6日（月）
福澤先生誕生記念日（休業）	1月10日（金）
修士論文提出締切日	1月9日（木）
修士論文審査委員会	1月27日（月）～ 1月 29日（水）
学位授与式	3月26日（木）

一 般 注 意 事 項

I 学生証（身分証明書）

学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保健組合員証、および本塾図書館入館券を兼ねています。

学生証は登校の際、常時携帯し、次のような場合には提示しなければなりません。

- (1) 本塾教職員からの請求があった場合。
- (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合。
- (3) 通学定期券または学生割引乗車券を購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員からの請求があった場合。

1 再交付

学生証または学生証裏面シールを紛失、汚損した場合は、速やかに信濃町学生課窓口で再交付の申請を行ってください。再交付には約1週間を要します。

— 必要書類 — 学生証再交付願（所定用紙）

証明書用写真1枚（横3cm×縦4cm、カラー光沢仕上げ、脱帽、上半身正面、背景なし、3ヶ月以内に撮影されたもの）

2000円（証紙*証紙は学生課学生生活担当内の券売機で販売しています）

2 学生証の返却

再交付を受けた後に以前の学生証が見つかった場合、また、退学・修了等で離籍した場合はただちに信濃町学生課窓口に戻却してください。

II 掲 示 板

学生諸君への授業に関する通達事項は、孝養舎前に設置している修士課程用掲示板に掲示されます。掲示を見ることを怠り、不利益を被ることがないように注意してください。掲示内容の一部については、学年メーリングリストにて keio.jp のアドレス宛にメール通知します。

III Web システム

Keio.jp (<http://keio.jp/>)

ログイン方法：慶應 ID と Keio.jp パスワード

主な提供サービス：学業成績表の閲覧、慶應メール

入学時ガイダンスの指示に従い、利用のための「アクティベーション」を行ってください。Keio.jp の利用登録により取得した慶應 ID はメールアドレスとしても使用し、学年メーリングリストに登録されます。慶應 ID やパスワードを忘れた場合は、学生証を持参の上、信濃町 ITC 窓口に申し出てください。

学事 Web システム

ログイン方法 : Keio.jp からアクセスしてください。

主な提供サービス : 履修申告、登録済科目確認、住所確認・変更、証明書発行機の暗証番号確認

IV 諸届・各種証明書

下記事項はすべて学生課学事担当で取り扱います。

1 休学願、退学届および就学届

休学しようとする者は、指導教授の署名、捺印がされた休学願を直ちに学生課窓口へ提出してください。休学期間は当該年度末までとします。休学が次の年度におよんだ場合、改めて許可を得なければなりません。休学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学をしていた場合には、合わせて医師の診断書を提出してください。退学しようとする者は、退学届に学生証を添えて学生課窓口へ提出してください。

2 留 学

留学を希望する場合には、その3ヶ月前までに国外留学申請書を学生課窓口へ提出する必要があります。留学は1年単位とし、延長する場合はその都度申請しなければなりません。また帰国したらただちに帰国届を提出する必要があります。詳しくは、学則第124条を参照してください。

3 学外研究施設での研究届

一定期間本大学以外の研究機関(研究施設)において研究を行う場合は、その都度「学外研究機関における研究届」(指導教授の署名捺印が必要)を学生課窓口へ提出し、研究科委員会の承認を得る必要があります。

研究届ダウンロード

URL<<http://www.gakujournal.keio.ac.jp/shinano/iken1/3946mc000001zpz.html>>

4 住所変更(本人・保証人)

(1) 本人の住所変更の場合

速やかに学事 Web システムにて、住所変更を行ってください(URL およびログイン方法は上記参照)。不備がなければ、申請は通常、数日で承認されます。通学定期の区間が変更となる場合は、学生証裏面シールの記載事項の訂正および訂正印が必要となりますので、住所変更の申請が承認された後に、信濃町学生課窓口へ届け出てください。

(2) 保証人の住所変更の場合

速やかに信濃町学生課窓口へ届け出てください。

—必要書類— 学生証、住所変更届（所定用紙）、保証人の住民票（3ヶ月以内に発行されたもの）

5 保証人変更届、改姓（名）届

各届とも学生課学事担当所定の用紙に記入のうえ速やかに信濃町学生課窓口へ提出してください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。

6 各種証明書・学割証

孝養舎1階にある「証明書自動発行機」を使用してください（即時発行）。操作には学生証と暗証番号※が必要です。※暗証番号は学事 Web システムで確認できます。

【発行機稼動時間】月曜～金曜日 9:00～20:00（祝日を除く）

※その他の停止期間は随時掲示板等で通知します。

【発行証明書種類】

証明書	金額	備考
在学証明書、成績証明書、修了見込証明書（和文・英文）	200円	修了見込証明書は修了見込年度の5月上旬より発行可
健康診断証明書（和文）	200円	健康診断受診後7月上旬より発行可
学割証	無料	

厳封が必要な証明書、上記以外の和文証明書、英文証明書を希望する場合は、所定の申込用紙に必要な分の証紙を添付して学生課窓口申請してください。

発行には数日かかる場合がありますので申し込みの際に確認してください。

※「証明書自動発行機」で発行された証明書は厳封できません。

学生課窓口受付時間 平日 8:45～16:45

V 在学料の納入について

学費の納入については、銀行振込制度をとっており、入学時納入金以降の振込用紙は保証人宛に発送されます。振込み用紙により、期日までに銀行窓口で納入してください。また、納入証明書は大切に保管してください。

	春学期	秋学期
振込用紙発送（予定）	4月上旬	10月上旬
納入期限	4月末日	10月末日

やむを得ない事情で、授業料を期日までに納入できない場合は、「授業料延納申請書」（学生課窓口で配布）を以下の期日までに提出してください。理由が適当と認められた者に対しては、「延納決定通知書」を送付いたします。届出の期日については学生課学生生活担当まで日程を確認してください。

VI 学生自習室およびロッカー室の使用について

1 学生自習室について

「信濃町キャンパス自習室利用規則」に則り、利用してください。

・孝養舎2階自習室

6:00～23:00 まで利用可能

ただし正面玄関は施錠されるため、21:00以降は正面玄関脇の非常口から退出してください。正面玄関施錠時間に利用する場合には、防災センター(1号館1階)で解錠手続きをしてください。

・第二校舎1階自習室

6:00～23:00 まで利用可能

入室には学生証が必要です。

2 ロッカー室の使用について

利用を希望する学生には、年度ごとにロッカーを貸し出すことも可能ですので、学生課窓口まで来室してください(要学生証)。ただし、ロッカー数には限りがあるため、希望に添えないこともありますのでご了承ください。

VII 追・再試験について

人身事故その他やむを得ない事情によって試験当日に欠席した者、または試験を受験して合格しなかった者に対しては、追・再試験を行う場合があります。追・再試験の実施については学生課学事担当から通知します。また、追・再試験受験希望者は、学生課学事担当の公示指定する期間中に学事担当に申し出て、手数料(1科目につき2,000円)を納入してください。追・再試験受験者は、上記手続完了後に学生課(学事担当)が発行する追・再試験受験票を試験監督者に提示してください。

VIII 修士論文について

1 修士課程を修了するためには、各授業科目の単位を取得することと併せて、大学院学則第86条の7の定めるところにより、指導教授の指導の下で修士論文を作成し、定められた締切日までに所定部数を学生課学事担当窓口に提出し、審査委員会での論文審査に合格する必要があります。提出締切日および審査委員会の日程については、学事日程を参照してください。また、審査委員会当日は、論文内容に関連した試問が実施されますので、当日は他の予定を入れないようにしてください。

なお、論文の提出部数は、審査委員の人数により変更されることがあります。その際は掲示で通知するので注意してください。

- 2 修士論文の提出に先立ち、修士論文発表会を第2学年次10月下旬に実施します。各自、論文内容についてプレゼンテーションを行い、発表後には諸先生方との質疑応答が行われます。発表時間は質疑応答を含めて30分を予定しています。修士論文発表会の日程については、学事日程を参照し、当日は他の予定を入れないようにしてください。
- なお、本発表会は公開制で行われるので、審査委員の他、多くの学生および教職員が来聴します。第1学年の学生は聴講必須です。プレゼンテーションの内容および方法については、予め指導教授とよく相談しておいてください。

IX 学生健康保険互助組合（学生健保）

医療費の一部が給付される医療給付と契約旅館の紹介を行う予防給付があります。詳細については、ガイダンス時に配付した『健保の手引』を参照してください。

・医療給付

医療機関で診療を受けた場合、窓口で支払った自己負担額の一部を給付する制度です。制度を利用する際は、まず「医療給付振込口座届」（所定用紙）の提出が必要です。申請方法などの詳細は以下のWebページで確認してください。（Keio.jp 認証が必要です）

Keio.jp にアクセス（<http://keio.jp>）→「Application」メニューより、学生健康保険互助組合「医療給付制度」を選択→学籍番号を入力

・予防給付

契約旅館に対する宿泊費補助や、学生健保委員会が企画する各種イベントの開催などを行っています。

X 保険について

1. 全員加入の保険

・学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約有り）

大学の国内外における教育研究活動中に生じた急激かつ偶然な事故によって身体に傷害を被った場合に保険金が支払われます。

【対象となる活動範囲】

- ・大学内外での正課・大学行事
- ・住居と学校施設等との間の通学
- ・学校施設等相互間の移動中の事故など

詳細については、ガイダンス時に配付した『学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり』を参照してください。また上記活動中に傷害を被った場合は、直ちに学生課窓口で事故通知の手続きをしてください。

なお、この通知から保険金の支払いまでの手続過程は以下の通りです。

=== 事故発生から保険金請求まで ===

【事 故 発 生】 ↓	
【事 故 通 知】 ↓	学生課学生生活担当へ連絡する。 ⇒事故通知の作成・送付 ・事故通知システム（PC・スマートフォン） ・FAX ・事故通知はがき（窓口で配付） *事故発生から30日以内に保険会社に事故報告
【保険金請求手続】 ↓	「保険金請求書」を学生課学生生活担当窓口で受領する。 ⇒必要事項を記入のうえ、学校証明印をもらう。 *場合によって各種証明書、医師の診断書等が必要
【保険会社に書類送付】 ↓	保険金請求書を学生が送付する。
【保険金支払】	本人が指定した金融機関の口座へ、保険会社から支払われる。

〈注意〉死亡事故の場合は保険金の支払いが大学を経由して行われるなど、上記とは手続が異なります。

II. 任意加入の保険

その他の保険に加入希望の場合は、直接それぞれに申し込むことになっています。

- ・ 学生総合補償制度保険
担当： (株) 慶應学術事業会（慶應義塾関連会社） / 連絡先： 03-3453-3846
- ・ 学生総合共済
担当： 慶應義塾生活協同組合 / 連絡先： 045-563-8489
- ・ 学研災付帯賠償責任保険
担当： 学生課学生生活担当 / 連絡先： 03-5363-3665

X I 緊急時における授業の取り扱いについて

政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合や、各種自然災害・大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態が発生した場合の授業の取り扱いは次のとおりとします。

- 1 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合
首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合は、ただちに全学休校とします。なお、地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応については、ホームページ等を通じてお知らせします。
- 2 鉄道等交通機関の運行停止やその他緊急事態発生の場合
台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場合はホームページ等を通じてお知らせします。

URL <http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

<その他の注意事項>

授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、上記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

履 修 上 の 注 意

I 課程修了の要件

- 1 2年間（デュアル・ディグリー制度適用の場合は1年）以上医学研究科修士課程に在籍し、選択必修科目26単位、選択科目4単位以上、合わせて30単位以上の授業科目を修得すること。ただし、本大学大学院経営管理研究科からのデュアル・ディグリー制度による入学者は、産業経済分析：ライフサイエンス産業（隔年で開講）4単位の計8単位を含む26単位を選択必修科目として修得するものとする。
- 2 学位論文（修士論文）の提出および最終審査に合格すること。

II 履修科目の選択

1 科目の選択についての注意

履修科目の選択にあたっては、必ず指導教授の指示に従ってください。

第1年次終了時までには14単位以上（選択必修科目の10単位を含む）を履修することを原則とします。第2年次は修士論文作成や研究活動を中心と出来るように、修了に必要な単位のうち「医科学特別研究」以外については、可能な限り第1学年次に履修するようにしてください。「医科学特別研究」については、第1学年次から修士課程を通じて履修すべきものですが、第2学年次における論文審査合格後に単位が認定されるため、第1学年次に単位を取得することはできません。

2 医学特別講義について

医学研究科博士課程の学生を対象として、研究科委員（博士課程）全員による医学特別講義を開講しています。修士課程についても、この授業を選択科目として履修することができます。

3 他の研究科・学部の授業履修について

指導教授が必要と認めた場合には、医学研究科委員会の審議を経て、他の研究科修士課程、学部、もしくは研究所等塾内諸機関に設置された授業科目、もしくは医学研究科委員会の認める他大学大学院もしくは塾外研究機関における授業科目を指定して履修させ、評価の上適当な単位を与えることができる。（学則第86の5条①）

指導教授の指示により、他の研究科修士課程・学部等の授業科目を選択科目として履修することが可能です。医学研究科以外の科目を履修しようとするときは、必ず学生課（学事担当）に履修の方法について問い合わせてください。

4 デュアル・ディグリー制度による入学者の単位認定について

デュアル・ディグリー制度による入学者のうち、前研究科在学時に取得した共通科目の単位認定を希望する者は、履修申告期間中に学生課（学事担当）に申し出てください。

Ⅲ 履修申告

学事 Web システムによる申告期間	4月 10日(水) 13:00	～	4月 13日(土) 13:00
登録科目一覧画面コピーの提出	4月 10日(水)	～	4月 19日(金) 16:45
履修申告修正期間	5月 7日(火)	～	5月 10日(金) 16:45

「Web による履修申告」を行った学生は、必ず Web 申告期間中に画面に表示される「登録科目一覧」画面を印刷し、右上の「指導教員欄」に承認印を受けた用紙を4月19日(金)16:45までに信濃町学生課前レポートボックスに提出してください。履修申告修正期間後は本年度の履修確認が終了したものとみなし、履修内容は確定されます。以上を怠ったために生じた問題(申告漏れにより修了単位不足となる)について大学は一切責任を負いません。

Web 履修申告 (学事 Web システムより)

ログイン方法: Keio.jp よりアクセスしてください。

*操作方法・注意は別紙“履修申告マニュアル”および学事 Web システム上のオンラインマニュアルもご参照ください。

1 履修申告について

年間の履修計画を指導教授に相談のうえで、1年次の春学期に1、2年次に履修する科目すべてを学事 Web システムより履修申告してください。別紙“2019年度授業科目登録番号一覧”の授業科目名、担当者名と登録番号(5桁)を十分に確認し、登録番号(5桁)検索で申告してください(別紙“履修申告マニュアル”参照)。履修申告期間内は何度でも申告内容を変更できますが、上記期日を守り、時間に余裕を持って行ってください。

注意事項:

- ①期日までに履修申告をしない場合は、修学の意味がないものとして退学処分になります。
- ②4月25日以降に、履修申告した科目が正しく登録されているかを必ず確認してください。その上で、必要があれば履修申告修正期間中に信濃町学生課学事担当窓口に申し出て修正を行ってください。
- ③履修期間中は何度でも申告内容の修正ができますが、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止します。

2 指導教員の承認印について

Web による履修申告期間は4月10日(水)13:00～4月13日(土)13:00までですが、Web 登録時に下記の画面をプリントアウトして、「指導教員」欄に承認印を受けて、4月19日(金)16:45までに信濃町学生課前レポートボックスに提出してください。

IV 成績

1 成績評語

学業成績の評語は合格した科目のみが **S・A・B・C** の4種類で示されます。
ただし、特定の科目は、評語が **P** (合格)、**G** (認定) となります。

2 学業成績表

学業成績表を3月下旬に本人宛に郵送します。学業成績表はいかなる事情があっても再発行しません。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

3 WEB 閲覧

特定期間内に学業成績表を **Keio.jp** で閲覧可能です。
利用にあたっては「**Keio.jp**」のID、パスワードが必要です。

4 学業成績証明書を発行する時期は翌年度以降（4月以降）です。ただし、修士課程修了決定者については修了日（3月23日）以降の最初の平日から、証明書自動発行機にて発行可能です。

授業時間割表および講義予定表

2019 年度大学院医学研究科修士課程授業時間割

第1時限	9:00～10:30	第4時限	14:45～16:15
第2時限	10:45～12:15	第5時限	16:30～18:00
第3時限	13:00～14:30	第6時限	18:10～19:40

選択必修科目(春学期)

※下記の曜日は原則です。実施日、時限については、授業実施日一覧にて確認すること。

曜日	科目名	科目責任者	授業場所
月	医学概論(基礎的概論)	洪 実	セミナールーム5
火	医療倫理学	奈良 雅俊	セミナールーム5
水	医学概論 (ヒトの構造・機能・病態概論)	貴志 和生	セミナールーム5
木	医学方法論	塩見 春彦	セミナールーム5

選択科目一覧(秋学期)

※実施日・時限については、指導教授および科目責任者と相談すること。

※今年度開講科目は別紙“科目登録番号一覧”を確認すること。

※同一科目名であっても、科目担当者が異なる場合は異なる科目として履修を認める。

科目名	科目名	科目名
発生・分化生物学	解剖学	生理学
薬理学	医化学	分子生物学・遺伝学
熱帯医学・寄生虫学	衛生学公衆衛生学	病理学
微生物学・免疫学	法医学	医療政策・管理学
先端医科学	生命現象のコンピュータシミュレーション	内科学
外科学	麻酔学	整形外科学
形成外科学	小児科学	産婦人科学
眼科学	皮膚科学	泌尿器科学
耳鼻咽喉科学	精神医学	放射線医学
歯科・口腔外科学	リハビリテーション医学	薬剤学
臨床検査医学	救急医学	細胞生物学
生物物理学	スポーツ医学	看護学総論
生命倫理学	動物実験医学	量子生物学
人工臓器・ME・医用工学	漢方医学	ストレスマネジメント学
技術戦略論	システム生物学	がんのリハビリテーション学
臨床試験方法論	再生医学	化学
医療経済学		

医学概論(基礎的概論)

	日程	時限	授業担当者	内容
第1回	4月8日(月)	1	洪 実	コースガイド・生命システム総論
第2回	4月8日(月)	2	梶村眞弓	細胞生物学
第3回	4月15日(月)	1	吉村 公雄	医療政策・管理学
第4回	4月15日(月)	2	柚崎 通介	神経生理学
第5回	4月22日(月)	1	末松 誠	医化学
第6回	4月22日(月)	2	久保田 義顕	形態学・解剖学
第7回	5月13日(月)	1	岡野 栄之	生理学
第8回	5月13日(月)	2	谷口 智憲	腫瘍免疫学
第9回	5月20日(月)	1	阿部 陽一郎	薬理学
第10回	5月20日(月)	2	小崎 健次郎	臨床遺伝学
第11回	5月27日(月)	1	吉村 昭彦	免疫学
第12回	5月27日(月)	2	仲嶋 一範	神経解剖学
第13回	6月3日(月)	1	松尾 光一	組織学・骨の発生学
第14回	6月3日(月)	2	佐谷 秀行	先端医科学・遺伝子制御
第15回	6月10日(月)	1	本田 賢也	微生物学
第16回	6月10日(月)	2	金井 弥栄	病理学・エピゲノム
第17回	6月17日(月)	1	藤田 眞幸	法医学
第18回	6月17日(月)	2	塩見 春彦	分子生物学

授業場所: セミナールーム5

医療倫理学

	日程	時限	授業担当者	内容
第1回	4月2日(火)	2	奈良 雅俊	イントロダクション:医療倫理学とは何か
第2回	4月9日(火)	2	奈良 雅俊	倫理学の基礎
第3回	5月7日(火)	2	奈良 雅俊	医療倫理学における原則アプローチ
第4回	5月14日(火)	2	奈良 雅俊	医療倫理学における4分割法アプローチ
第5回	5月21日(火)	2	奈良 雅俊	インフォームド・コンセント
第6回	5月28日(火)	2	奈良 雅俊	守秘義務と個人情報保護
第7回	6月4日(火)	2	奈良 雅俊	生殖医療/遺伝医療と倫理
第8回	6月11日(火)	2	奈良 雅俊	終末期医療と倫理
第9回	6月18日(火)	2	奈良 雅俊	研究公正
第10回	6月25日(火)	2	奈良 雅俊	被験者保護
第11回	7月2日(火)	2	奈良 雅俊	研究倫理指針と倫理委員会
第12回	7月9日(火)	2	奈良 雅俊	利益相反
第13回	7月16日(火)	2	奈良 雅俊	幹細胞研究と倫理
第14回	7月23日(火)	2	奈良 雅俊	医療資源の配分と正義
第15回	7月30日(火)	2	奈良 雅俊	プロフェッショナリズム

授業場所: セミナールーム5

医学概論(ヒトの機能・構造・病態概論)

	日程	時限	授業担当者	内容
第1回	4月10日(水)	2	中原 仁	神経疾患
第2回	4月17日(水)	1	平田 賢郎	ヒトの病態 総論
第3回	4月24日(水)	1	野田 賀大	精神疾患
第4回	4月24日(水)	2	辻 収彦	再生医療
第5回	5月8日(水)	1	岡野 栄之	高齢医学
第6回	5月8日(水)	2	横田 健一	内分泌・代謝疾患
第7回	5月15日(水)	1	宇野 俊介	感染症
第8回	5月15日(水)	2	高石 官均	腫瘍
第9回	5月22日(水)	1	大友 耕太郎	免疫疾患
第10回	5月22日(水)	2	清水 隆之	血液疾患
第11回	5月29日(水)	1	橋本 寿之	循環器疾患
第12回	5月29日(水)	2	安田 浩之	呼吸器疾患
第13回	6月5日(水)	1	谷木 信仁	消化器疾患
第14回	6月5日(水)	2	阪埜 浩司	婦人科疾患
第15回	6月12日(水)	1	武田 利和	腎・泌尿器疾患
第16回	6月12日(水)	2	小島 隆司	眼科疾患
第17回	6月19日(水)	1	國弘 幸仲	耳鼻咽喉科疾患
第18回	6月19日(水)	2	鈴木 悟士	筋骨格系疾患
第19回	6月26日(水)	1	久保 亮治	皮膚疾患
第20回	6月26日(水)	2	公田 龍一	放射線生物学
第21回	7月3日(水)	1	飯田 美穂	公衆衛生学
第22回	7月3日(水)	2	武内 俊樹	小児先天異常

授業場所: セミナールーム5

医学方法論

	日程	時限	授業担当者	内容
第1回	4月25日(木)	2	蓮輪 英毅	動物実験方法論1
第2回	5月7日(火)	14:45～ 16:15	長谷川 奉延	実験データの記録と保存
第3回	5月9日(木)	2	蓮輪 英毅	動物実験方法論2
第4回	5月16日(木)	2	広海 健	研究プレゼンテーションの心構えとコツ
第5回	5月21日(火)	14:45～ 16:15	広海 健	研究プレゼンテーション： 伝えるべき事を伝えやすくするための技
第6回	5月23日(木)	2	荒川 和晴	ImPACTプロジェクトにおけるクモ糸研究での事例紹介
第7回	5月30日(木)	2	富田 勝	産官学連携
第8回	6月6日(木)	2	佐藤 泰憲	疫学・医学統計概論①
第9回	6月13日(木)	2	松尾 光一	共同利用研究室ツアー(機械使用方法)
第10回	6月18日(火)	14:45～ 16:15	阿部 貴行	臨床試験方法論
第11回	6月20日(木)	2	岡村 智教	疫学・医学統計概論②
第12回	6月27日(木)	2	松尾 光一	共同利用研究室ツアー (機械使用方法)
第13回	7月4日(木)	2	Timothy Minton	英語論文執筆方法
第14回	7月11日(木)	2	Timothy Minton	演習
第15回	7月18日(木)	2	坪田 一男	修士のためのアントレプレナーシップ(起業家精神)

授業場所: セミナールーム5

※博士課程との合同授業「実験データの記録と保存」、「研究プレゼンテーション:伝えるべき事を伝えやすくするための技」、「臨床試験方法論」が3回追加で入ります。

※博士課程との合同授業3回は予防校舎講堂にて実施します。

選 択 必 修 科 目 の 講 義 概 要

医学概論（基礎的概論）

責任者：洪 実 教授（システム医学）

本科目は、医学部の基礎系の講座・教室が中心となって医学部学生に行われている授業を実体験し、それぞれの基礎科目の概念・成り立ち・考え方を例示的なテーマを中心に学習することを目的とする。生命科学はBiomedical Scienceと称されることもあり、基礎研究でも医学・医療への応用を究極の目的とすることが多く、医学部基礎系の学問全体に触れることは修士学生諸君の将来のキャリアに大きなプラスになることが期待される。

医学概論（ヒトの構造・機能・病態概論）

責任者：貴 志 和 生 教授（形成外科学）

本科目は、上記の医学概論（基礎的概論）と対になった臨床に軸足をおいたテーマを中心に学習することを目的とする。全22回からなるオムニバス形式の講義で、各領域の第一線で活躍している慶應義塾大学の臨床系各教室の医師に、それぞれが専門とする分野についての講義をお願いした。臓器別・疾患別に各疾患の病態とそれらが抱える問題点、治療の最前線についての講義を、実臨床に則した内容で聴講することができる。

医療倫理学

責任者：奈 良 雅 俊 教授（文学部）

医療倫理とは、医療と医学研究において守らなければならないルールである。医療倫理を支える学問が医療倫理学である。この授業は医療倫理学の基礎知識を習得することを目的とする。総論として、倫理学の基礎、医療の倫理的問題へのアプローチ法、インフォームド・コンセント、守秘義務と個人情報保護について講義する。各論として、生殖医療/遺伝医療と倫理、終末期医療と倫理、医療資源の配分、幹細胞研究と倫理、研究公正、研究倫理（被験者保護）、利益相反、プロフェッショナリズムをとりあげる。これらの講義を通して、医療と医学研究における倫理の重要性を学ぶ。

医学方法論

責任者：塩 見 春 彦 教授（分子生物学）

本科目は、医学研究（基礎及び臨床）の進め方や研究の際の留意点を中心に学習することを目的とする。また、研究成果の医学・医療への応用を具体的に進める際の基本的な考え方を学ぶことは修士学生諸君の将来のキャリアに大きなプラスになることが期待される。

医科学特別研究

責任者：指 導 教 授

医科学を専攻する学生は、指導教授の指導により自己の研究テーマを定め、二年間の研究を行う。この際、指導教授の研究室が開催する研究会、演習等へも積極的に参加することにより当該研究分野に関わる様々な事項を学ぶ。自分の研究活動によって得られた成果については、修士論文発表会および修士論文審査会において関連分野の学識を有する複数の教員等により評価される。本科目では、これらの過程を通して学生が当該分野の学識を深め、研究者としての礎を作ることを目的とする。

医学研究科委員(修士課程)一覧

所属	職位	氏名	フリガナ	専門領域	研究内容
解剖学教室	教授	仲嶋 一範	Kazunori Nakajima	大脳皮質の発生・分化機構の解明	中枢神経系、特にさまざまな高次脳機能を担う大脳皮質の細胞が、どこでどのように誕生し、その後どのような制御を受けてあるべき場所へと移動して、最終的に見事な機能を担うネットワークを形成していくのかを、分子・細胞レベルで明らかにする。さらに、発生過程の様々な擾乱によってそれが破綻するメカニズムを解明することを旨とする。
解剖学教室	教授	久保田 義顕	Yoshiaki Kubota	血管生物学・発生学	最新のイメージング技術を駆使した遺伝子改変マウスの解析により、血管をはじめとする組織構築の高次構造の形成過程を明らかにする。
生理学教室	教授	岡野 栄之	Hideyuki Okano	中枢神経系の発生と再生	神経幹細胞・iPS細胞技術を駆使し、中枢神経系の再生医学研究と精神・神経疾患の病態解明を行う。また、遺伝子改変霊長類技術を開発し、精神・神経疾患モデルの作出、高次脳機能と脳の進化のメカニズムの解明を目指す。
生理学教室	教授	柚崎 通介	Michisuke Yuzaki	記憶・学習の基礎としてのシナプス形成・可塑性	発達期に特定の神経細胞の間にシナプスが形成されるとともに、シナプスの形態と機能は、環境と神経活動に応じて生涯にわたって変化し、記憶・学習機構の基盤となる。これらの過程の解明を目指して電気生理学・分子生物学・行動生物学を統合的に用いる。
薬理学教室	教授	安井 正人	Masato Yasui	水分子の生命科学・医学 (Water Biology & Medicine)	水チャネル、アクアポリンの構造・機能相関を生化学的アプローチと分子動力学シミュレーションの両面から解析する。特に脳のアクアポリンの制御機構、高次機能を研究し、創薬の基盤を築く。また、脳のリンパ排泄におけるアクアポリンの役割、アルツハイマー病との関連を研究する。
医化学教室	客員教授	末松 誠	Makoto Suematsu	病態生化学 (Gas Biology) : ガスによる生体制御の生物学、微小循環学、代謝システム生物学	ガス分子による新しい代謝制御の分子機構を追究する一方、メタボロームや質量顕微鏡を活用した代謝システム生物学を推進している。
分子生物学教室	教授	塩見 春彦	Haruhiko Siomi	RNA生物学	RNAi関連分子経路の解析を通して、これら分子経路によるゲノムの品質管理機構と幹細胞形成・維持機構への関与を理解する。また、その異常による疾患発症機構の理解とその治療戦略への応用を目指している。
衛生学公衆衛生学教室	教授	武林 亨	Toru Takebayashi	予防医学、環境・産業保健	予防医学分野では、メタボロミクスを含む多層オミックス解析を用いた疫学研究に基づく精緻化された疾患予測モデルの構築など、予防医学研究を実施している。環境保健、産業保健分野では、疫学研究、実践研究、リスク評価研究を行うとともに、基準設定や標準化を通じて、社会的な予防活動に従事している。
衛生学公衆衛生学教室	教授	岡村 智教	Tomonori Okamura	公衆衛生学、生活習慣病の疫学、栄養疫学、地域医療学、国際共同研究	大規模コホート共同研究や国際比較研究を通じて、生活習慣病の発症を予測するためのバイオマーカーの探索、適切な予防につながる食生活等の生活習慣改善手法の解明を目指している。また健康教育や市民啓発を通じた地域介入研究、政策疫学研究 (健康日本21、データヘルス)、臨床系の診療ガイドラインの疫学知見の提供やエビデンス構築などを実施している。
病理学教室	教授	坂元 亨宇	Michiie Sakamoto	腫瘍病理、肝臓病理、分子病理、病理情報	がんの発生進展過程の分子機構解明、個別の病理診断の確立、定量的病理診断と病理のIT化。
病理学教室	教授	金井 弥栄	Yae Kanai	腫瘍病理学・疾患エビジェネティクス研究・多層オミックス統合解析	諸臓器がん・病理形態学的に認識される前がん病変・発がんの素地となる代謝性疾患・炎症性疾患等における、エピゲノム解析ならびに多層オミックス統合解析に基づき、疾患発生の分子機構を解明して発がんリスク診断等を可能にし、ゲノム医療・予防先制医療の基盤を構築することを目指す。
微生物学・免疫学教室	客員教授	小安 重夫	Shigeo Koyasu	免疫学、細胞生物学	分子細胞生物学的手法とマウスモデルを駆使し、自然免疫系と獲得免疫系の制御機構の解明を目指している。現在は特に自然リンパ球の機能に着目している。
微生物学・免疫学教室	教授	吉村 昭彦	Akihiko Yoshimura	分子免疫学 サイトカインと炎症を中心とした疾患の病態解明	1. CIS/SOCSファミリーとサイトカインによる免疫調節機構の解明 2. 炎症を中心に各種疾患におけるサイトカインとそのシグナルの意義の解明 3. Spred/Sproutyファミリーの機能解析 4. T細胞リプログラミング。
微生物学・免疫学教室	教授	本田 賢也	Kenya Honda	免疫学、微生物学、腸内細菌学	腸内細菌が宿主にどのような影響を与えているかを明らかにし、疾患治療に応用することを目指す。また病原体に対する宿主応答機構解明にも取り組んでいる。
法医学教室	教授	藤田 眞幸	Masaki Q. Fujita	突然死の研究、法医学的客観的診断基準の確立	ボックリ病を代表とする若年者の突然死につき、東南アジアでの実態調査、遺伝子解析や疫学的比較研究を行い、その原因、素因を究明することを目指す。また、より客観性の高い法医学的診断法の確立を進めている。
医療政策・管理学教室	教授	宮田 裕章	Hiroaki Miyata	医療政策・管理学、医療の質、疫学、政策評価、社会科学方法論	i. 臨床現場が主体となる医療の質の改善、ii. 診断治療法・医療技術の継続的な革新、iii. ステークホルダーの連携による持続可能な最善の提供体制、などを実現するための臨床研究、医療政策研究を行う。
坂口光洋記念講座 (システム医学講座)	教授	洪 実	Minoru Ko	哺乳類初期胚と幹細胞、実験と計算機によるシステム医学	網羅的実験手法と計算機を駆使して、遺伝子発現ネットワークの構造と動態を解明する。細胞組織の再生、若返り方法を研究し、長寿健康を促進する医療への応用を目指す。システム手法の医学医療への応用を推進する。
坂口光洋記念講座 (オルガノイド医学)	教授	佐藤 俊明	Toshiro Sato	オルガノイド医学	様々な組織細胞を培養皿の中で3次元組織構築体として培養する方法、オルガノイド培養を用い、組織の生物学的な振る舞いを研究している。特に、がん研究や再生医学への応用を中心に研究を行っている。

所属	職位	氏名	フリガナ	専門領域	研究内容
先端医学研究所 (遺伝子制御研究部門)	教授	佐谷 秀行	Hideyuki Saya	悪性腫瘍形成の分子機構	1) 癌幹細胞の性状解析と治療戦略開発 2) 癌細胞浸潤・転移・再発の分子機構解析 3) 癌組織の不均一性と癌細胞の可塑性の解析
内科学(循環器)教室	教授	福田 恵一	Keiichi Fukuda	心筋細胞の再生による難治性心不全の治療法開発	iPS細胞等を用いた心筋細胞再生と、これをもちいた種々の心疾患の病態解明、治療法の開発、再生医療の研究を進めている。心不全と交感神経機能の相関関係、心臓弁膜症の発症機転、肺高血圧症の治療法開発等の多方面の研究を展開している。
内科学(消化器)教室	教授	金井 隆典	Takanori Kanai	消化器病領域の免疫疾患の基礎臨床研究	炎症性腸疾患、肝臓・膵臓免疫疾患の病態の解明と創薬を主眼とした臨床開発。免疫学、遺伝学、栄養学の融合を目指した予防医療の開発。
内科学(神経)教室	教授	中原 仁	Jin Nakahara	神経治療学	神経内科領域のあらゆる疾患を対象に、先進的なトランスレーショナル・リサーチから在宅医療まで、手段を問わず患者の生命の質(quality of life)を改善させる治療の具現化に向けた研究を行っている。
内科学(血液)教室	教授	岡本 真一郎	Shinichiro Okamoto	造血器腫瘍の病態解明と、造血幹細胞移植および分子標的療法を応用した造血器悪性腫瘍の新規治療の開発	同種造血幹細胞移植における前処置抗腫瘍効果の分子標的療法を用いた選択的増強、同種造血幹細胞移植後の同種免疫反応の選択的制御、臍帯血移植後の同種免疫反応に付随する抗腫瘍効果の機序、造血器腫瘍に対する治療・移植後のlong-term follow-up、骨髄腫、MDSに対する新規分子標的療法についての臨床研究に加えて、骨髄系・リンパ系腫瘍の発症機序の解明に取り組んでいる。
内科学(リウマチ)教室	教授	竹内 勤	Tsutomu Takeuchi	自己免疫病の分子機序の解析とその制御、それを標的とする治療法の開発	自己免疫疾患(関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、など)の病態形成に関わる分子異常を解析し、その異常分子標的に対する制御法の開発とそれを臨床応用するためのトランスレーショナル研究の展開。最新の分子標的治療薬によるテーラーメイド治療法の構築。
内科学(腎臓・内分泌・代謝)教室	教授	伊藤 裕	Hiroshi Itoh	生活習慣病、メタボリックシンドロームとその腎・血管合併症に関するトランスレーショナルリサーチ	高血圧症、糖尿病、肥満など生活習慣病とその重積であるメタボリックシンドロームおよび腎・血管合併症の機序を内分泌代謝学的に明らかにし、未病医学、抗加齢医学、再生医学の観点より新規医療法開発に応用するトランスレーショナルリサーチを推進している。
外科学(一般・消化器)教室	教授	北川 雄光	Yuko Kitagawa	消化器外科学、外科腫瘍学、内視鏡外科、固形癌集学的治療、外科感染症、外科侵襲と生体反応、Sentinel node navigation surgery	癌リンパ節転移機構の解明とその制御をSentinel node理論に立脚したアプローチで研究。癌微小転移や末梢血中癌細胞の検出法を応用した、消化器癌集学的治療の個別化の実現。高度外科侵襲や外科系感染症に伴う生体反応に関する研究。
外科学(小児)教室	教授	黒田 達夫	Tatsuo Kuroda	小児がんの細胞動態、胎児外科	小児がんの分子生物学的手法による微小転移検索ならびに細胞動態解析を臨床研究とあわせて総合的に分析している。胎児呼吸器疾患の病理学的検討から胎児外科症例の適応を分析している。
外科学(心臓血管)教室	教授	志水 秀行	Hideyuki Shimizu	心臓血管外科学、大動脈ステントグラフト治療、低侵襲心臓血管外科手術、臓器保護法、人工臓器	心臓・大血管領域の疾患に対する高難度手術・低侵襲治療の実践を基盤とした術式開発、臓器保護法に関する研究。大動脈瘤・大動脈解離の病態解明と新たな診断法・治療法の開発。
外科学(呼吸器)教室	教授	淺村 尚生	Hisao Asamura	呼吸器外科学、胸部腫瘍学、癌の病期分類、がん登録と診療科データベース、低侵襲胸部外科手術	肺癌、胸腺腫、胸膜中皮腫など胸部悪性腫瘍の集学的治療、外科治療を含む癌の臨床試験の方法論の構築、悪性腫瘍の病期分類法の改訂(UICC)、低侵襲の肺癌悪性腫瘍の治療法の開発、肺癌登録の方法論の構築と結果の解析
脳神経外科教室	教授	吉田 一成	Kazunari Yoshida	脳腫瘍外科的治療、悪性脳腫瘍の集学的治療、頭蓋底外科、脳腫瘍の組織学的生物学的解析	脳腫瘍、頭蓋底疾患の臨床像の解析と外科解剖に基づいた手術法の開発。悪性脳腫瘍(特に胚細胞性腫瘍)の完治を目指した診断学、集学的治療の開発。組織化学的、生物学的的手法による脳腫瘍の悪性度の解析。
整形外科教室	教授	松本 守雄	Morio Matsumoto	脊椎外科、低侵襲脊椎手術、側弯症	脊椎手術に必要な人工素材の開発、側弯症の疾患感受性遺伝子同定、側弯症に対する新しい手術法や評価法の開発、脊椎疾患に対する多施設共同研究、脊椎の加齢変化に関するMRIを用いた研究、脊椎手術の侵襲性の評価に関する研究などを行っている。
整形外科教室	教授	中村 雅也	Masaya Nakamura	脊椎脊髄外科、脊髄疾患の外科的治療、神経科学(脊髄再生、栄養因子neuroimaging)	臨床では脊椎脊髄疾患の病態解明を、基礎では運動器の再生医療、特に脊髄再生医療を目指して、1) iPS細胞を用いた移植治療、2) 肝細胞増殖因子、3) 軸索伸長阻害因子の抑制剤、4) MRIによる新たな評価法等の開発に取り組んでいる。
リハビリテーション医学教室	教授	里宇 明元	Meigen Liu	リハビリテーション医学、神経科学、運動生理学	1) 中枢神経可塑性誘導のためのリハビリテーション手技の開発、2) brain machine interfaceの開発と臨床応用、3) 障害の評価と予後予測、4) 障害者の運動負荷に関する研究、5) がんのリハビリテーションに関する研究を推進している。
形成外科学教室	教授	貴志 和生	Kazuo Kishi	皮膚付属器を含めた皮膚の再生	マウス胎子の皮膚創傷後の再生現象を基に、皮膚付属器を含めた完全な皮膚の再生を成獣由来の細胞を用いて再現する方法の開発を進めている。また、その細胞生物学的、分子生物学的メカニズムの解析を行っている。
小児科学教室	教授	高橋 孝雄	Takao Takahashi	発達神経生物学、細胞周期、神経幹細胞、大脳皮質発生	小児神経疾患の多くは高次脳機能の発達障害と密接に関連している。大脳皮質の正常発生・異常発生における神経前駆細胞の分裂増殖・分化誘導に関する研究を通じて、小児神経疾患の原因究明、治療法確立を目指す。
小児科学教室	教授	長谷川 奉延	Tomonobu Hasegawa	成長および性分化の分子遺伝学的機序	ヒトの成長および性分化(あるいは成長障害および性分化疾患)の分子遺伝学的機序をヒトの疾患と体質、マウスモデルを用いて解析し、同時に成長障害および性分化疾患に対する新しい治療法を開発する。
小児科学教室	教授	山岸 敬幸	Hiroyuki Yamagishi	小児循環器学、臨床心臓発生学	先天性心疾患は、生命に直結する最も頻度の高い先天異常である。先天性心疾患の予防および再生医療を実現するために、心臓大血管の発生学、分子生物学、分子遺伝学的手法により、先天性心疾患の成因と分子機構を解明する。
産婦人科学(婦人科)教室	教授	青木 大輔	Daisuke Aoki	婦人科腫瘍学、婦人科病理学、分子細胞遺伝学、遺伝性腫瘍、婦人科がんの妊孕性温存治療、がん検診	婦人科腫瘍学を基盤として、がん細胞に特徴的に発現する抗原による癌の特性診断、分子細胞遺伝学的な知見やエピゲネティクスの解析に基づくがんの新たな予防・治療戦略の開発や遺伝性婦人科癌の遺伝子診断に取り組んでいる。
産婦人科学(産科)教室	教授	田中 守	Mamoru Tanaka	周産期医学、生殖医学、臨床遺伝学、発生学	哺乳類の個体の発生に関する分子生物学、胎児診断・胎児治療までの胎児医学、さらに間葉系幹細胞を用いた周産期疾患の治療の研究開発を行っている。

所属	職位	氏名	フリガナ	専門領域	研究内容
眼科学教室	教授	坪田 一男	Kazuo Tsubota	角膜移植、ドライアイ、屈折矯正手術、再生医学、近視、老眼、抗加齢医学、ヘルスサイエンス、フードサイエンス、イノベーション	角膜再生、シェーグレン症候群やVDT関連ドライアイのメカニズム解明と治療法の開発。近年では、加齢黄斑変性、白内障、老視、緑内障などの加齢性疾患への抗加齢医学による治療と予防、ヘルスサイエンス、フードサイエンスの取り組みとともに、眼光学とQOL、近視のメカニズムおよび予防法の研究、さらに大学発の産業創生、イノベーションと、その教育・人材育成にも注力している。
皮膚科学教室	教授	天谷 雅行	Masayuki Amagai	自己免疫、アレルギー、皮膚バリア、皮膚免疫	免疫臓器としての皮膚組織を見ることにより、見えてくるより普遍的な免疫現象を明らかにし、臓器を超えた自己免疫疾患の病態を解明する。アレルギー疾患発症機序を皮膚バリア傷害の観点から分子レベルで明らかにし、アレルギー疾患の予防、制御法を開発する。重症薬疹の病態を解明する。
泌尿器科学教室	教授	大家 基嗣	Mototsugu Oya	泌尿器がんの発生・進展のメカニズムの解明と新規治療法の開発	前がん病変から癌の成立、転移巣への進展までのメカニズムの統合的理解を目指し、サイトカインの産生や血管新生などの細胞生物学的特徴に焦点を当て、新規治療法の開発を行う。
耳鼻咽喉科学教室	教授	小川 郁	Kaoru Ogawa	内耳感覚細胞の保護および再生機構、耳鳴の中枢抑制機構の解明	難治性である慢性感音難聴および耳鳴に対する新しい治療法の確立を目的として、1) 内耳感覚細胞(聴覚・平衡覚)の再生、および2) 音響外傷等の各種障害からの細胞保護機構に関する研究を行っている。
精神・神経科学教室	教授	三村 将	Masaru Mimura	神経心理学および老年精神医学	脳損傷による高次脳機能障害と認知症を対象として、病態解明や治療・リハビリテーション技法の開発を行っている。また、うつ病を中心とする種々の精神神経疾患の認知障害について神経機能画像を用いて解析している。
放射線科学(診断)教室	教授	陣崎 雅弘	Masahiro Jinzaki	画像診断学	1. 循環器・泌尿器領域を中心にその時代の最適な画像診断アルゴリズムを構築することに取り組んでいる。 2. 新たな機器や手法の開発を行いながら人体の更なる可視化を目指している(末梢神経系、リンパ系、微小循環系)。 3. 4次元動態画像の臨床応用を検討している。
放射線科学(治療)教室	教授	茂松 直之	Naoyuki Shigematsu	放射線腫瘍学、放射線生物学	臨床研究では各種癌治療における定位放射線治療・強度変調放射線治療・臨床誘導放射線治療および組織内・腔内照射の適応拡大。放射線抗がん剤併用治療の有用性の検討。基礎研究では、放射線照射による染色体・遺伝子変異の定量、および放射線治療効果を予測するための分子生物学的検討を行っている。
麻酔学教室	教授	森崎 浩	Hiroshi Morisaki	敗血症心機能・腸管壁防御機構と保護手段・揮発性麻酔薬と微小循環障害・硬膜外麻酔と免疫機構	侵襲から生体を防御する医学を推進し、現在は敗血症心保護法の開発、腸管壁防御機構と保護手段の開発、麻酔深度ならびに硬膜外麻酔による生体免疫機構等の研究に従事している。
救急医学教室	教授	佐々木 淳一	Junichi Sasaki	救急医学、外傷学、熱傷学、外科感染症学、感染制御、侵襲と生体反応・薬物体内動態	侵襲病態下の生体反応機構、感染症治療薬など体内動態等の解析を行い、新規治療法の確立を目指す。再生医療(細胞技術の熱傷治療への応用など)の導入により、侵襲病態下の新規治療法の開発を目指す。
歯科・口腔外科学教室	教授	中川 種昭	Taneaki Nakagawa	歯周病学	1) 歯周病原細菌に関する研究 2) 間葉系幹細胞、iPS細胞を用いた口腔組織再生に関する研究 3) 歯周病原細菌に対する抗菌薬の感受性と臨床的有効性の解析 4) 音波歯ブラシの清掃性に関する臨床研究
臨床検査医学教室	教授	村田 満	Mitsuru Murata	遺伝子診断、臨床検査標準化、血栓性疾患の病態解明と予防、血小板の基礎研究	ゲノム情報や遺伝子解析技術駆使した新しい遺伝子診断法を診療の場に応用するための研究、広く臨床検査の標準化と普及を行っている。血栓形成の機序を分子学的見地から解明し、先天的、後天的危険因子を同定することにより有効な予防と治療を確立する。また血小板止血の基礎研究と新たな血小板機能評価法の確立を目指している。
臨床薬理学教室	教授	谷川原 祐介	Yusuke Tanigawara	薬物動態学、臨床薬理学	ヒトにおける薬効発現の個人差要因の解明と至適投与の方法論に関する臨床薬理学研究を中心に、薬物体内動態、薬力学、ゲノム薬理学、ファーマコメトリクスを研究する。
共同利用研究室(遺伝子医学研究室)	教授	工藤 純	Jun Kudoh	ゲノム医学、遺伝子医学	ゲノム解析法の開発と、それを駆使した様々な単一遺伝子疾患や多因子疾患の遺伝的要因の解明、さらに発症機構の分子レベルでの解明を目指している。
共同利用研究室(細胞組織学研究室)	教授	松尾 光一	Koichi Matsuo	骨の細胞組織学	骨の形態形成と恒常性維持のメカニズムを、細胞間相互作用によって解明することを目指している。
動物実験センター	教授	下田 耕治	Kouji Shimoda	動物実験センター 実験動物学、実験動物の福祉、マウスの発生工学	動物利用のひとつの形態である実験に利用される動物の福祉について考察し、適正な動物実験の実施を点検・評価、検証する。トランスジェニック技術を用いて各種モデルマウスを作製し、ヒト疾患を含む生物医学的現象を研究する。
医学教育統轄センター	教授	平形 道人	Michito Hirakata	医学教育学、リウマチ内科学、臨床免疫学	医学教育学：質の高い医学教育を目指して、入学選抜の改革、プロフェッショナルリズム教育、シミュレーション教育、コンピテンシー基盤型教育、基礎-臨床一体型医学教育を研究している。 リウマチ学・臨床免疫学：リウマチ性疾患・膠原病などの自己免疫疾患の特徴とされる「自己抗体」の産生機序、臨床的意義、病態形成機序を追究している。
医学教育統轄センター	教授	門川 俊明	Toshiaki Monkawa	医学教育学、腎臓内科学	医学教育においては、ICTを用いた医学教育手法の開発、多職種連携教育の推進など。腎臓内科学においては、水・電解質・酸塩基平衡異常の解明、尿管の分化、再生機構の基礎的研究。
感染制御センター	教授	長谷川 直樹	Naoki Hasegawa	臨床感染症学、感染制御学	肺炎球菌感染症、インフルエンザウイルス感染症、結核・非結核性抗酸菌感染症、HIV感染症の病態を解明し、これらの疾患の迅速診断法や疾患活動性や治療効果を反映するバイオマーカーの探索、ワクチンを含む治療法の確立を目指す。気管支鏡下で気道被覆液を採取し各種抗菌薬の肺内動態
内視鏡センター	教授	緒方 晴彦	Haruhiko Ogata	炎症性腸疾患の病態解明・新規治療法開発、消化管疾患の内視鏡診断・治療	Image enhancingならびに超拡大機能を搭載した内視鏡機器を用いた消化管粘膜のin vivo観察による炎症性腸疾患の病態解明と、付加価値機能や全消化管観察が可能な近未来型カプセル内視鏡の開発。
腫瘍センター(低侵襲療法研究開発部門)	教授	矢作 直久	Naohisa Yahagi	消化管腫瘍の低侵襲治療	低侵襲治療の代表的なものである内視鏡治療および腹腔鏡治療に関する新たな手技の開発、治療機器の開発を行っている。さらに内視鏡および腹腔鏡の融合した新たな治療手技や、NOTESに関する機器開発を行っている。
輸血・細胞療法センター	教授	田野崎 隆二	Ryuji Tanosaki	血液内科、造血幹細胞移植、輸血、細胞治療	悪性リンパ腫、特に成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)に対する同種ミニ移植や免疫細胞療法。輸血全般。細胞療法のための細胞処理・製造のためのセルプロセッシングセンター(CPC)の管理・運営。
臨床遺伝学センター	教授	小崎 健次郎	Kenjiro Kosaki	臨床遺伝学、先天異常学、小児科学	ゲノム科学の進歩を診療に応用している(稀少疾患の診断・治療・遺伝カウンセリング)。稀少疾患の分子遺伝学的解析を通じて、病態の解明を目指している。特に未診断疾患Undiagnosed diseasesの研究に注力している。

所属	職位	氏名	フリガナ	専門領域	研究内容
生物学教室	教授	梶村 真弓	Mayumi Kajimura	脳血流と代謝のカップリング	脳血流は局所の神経活動・代謝と関連しており、この現象は neurovascular coupling (NVC) と呼ばれています。低分子代謝物の時空間的な偏在情報（「いつ、どこで、どれくらい」）を評価することにより、脳代謝調節の根幹をなすNVCの分子実体の解明を目指しています。 (http://k-ris.keio.ac.jp/Profiles/74/0007369/profile.html)
化学教室	教授	井上 浩義	Hiro Yoshi Inoue	放射線学、創薬化学、天然物化学	放射性同位元素の濃縮・除去の方法の研究を行っており、信濃町地区の放射線管理責任者でもある。また、分子認識方法としてアプターおよび標識放射性同位元素を用いて、生活習慣病および加齢関連因子認識物質および検出方法を開発している。加えて、天然物由来機能性物質の探索・薬理研究および製造方法の開発を行っている。
文学部	教授	奈良 雅俊	Masatoshi Nara	倫理学、医療倫理学	臨床や医学研究の現場で提起される倫理的問題に倫理学の理論と方法を応用し分析している。現在は、生殖医療における倫理的問題、医学研究における不正行為、個人情報保護、利益相反を研究している。
経営管理研究科	教授	中村 洋	Hiroshi Nakamura	産業組織論（ライフサイエンス産業、ヘルスケア産業）、経営戦略論	ライフサイエンス産業において革新をもたらすための企業の経営戦略ならびに組織改革、革新的製品の創出と患者・財政負担の軽減を両立させる政策、ヘルスケア産業における院内・外の多職種連携のあり方についての考察
経営管理研究科	教授	姉川 知史	Tomofumi Ane-gawa	医療経済学、応用経済学	経済学を応用して、医療、教育、その他の産業分析を行う。とりわけ医薬品産業の分析、研究開発・知的財産権の経済学、医療の地域格差分析など。また、日本のグランド・デザインを策定する領域融合型教育において健康的加齢の社会的実現の方法を検討している。

奨学金・奨学融資制度について

I 奨学金関係

1. 日本学生支援機構奨学金について

独立行政法人日本学生支援機構による国の奨学制度です。医学研究科では、修士課程入学後の4月頃募集します。選考基準は、人物学業ともに優秀で、経済的理由により修学が困難な者となります。推薦枠は限られており、学内選考後日本学生支援機構へ推薦します。

第一種（無利子）	第二種（有利子）
●貸与月額： 50,000 円 88,000 円 (選択)	●貸与月額： 50,000 円 80,000 円 100,000 円 130,000 円 150,000 円 (選択)
●貸与期間：2年間（標準修業期間）	●貸与期間：2年間（標準修業期間）
●利子：なし	●利子：あり（固定型・見直し型を選択） 在学期間は無利子

【主な申請資格】

(1) 大学院生であること

※次の者は対象外

原級に留まっている者、標準修業年限を越えて在籍している者、前大学院で全期間奨学金を貸与され、修了または退学後、大学院当該課程に再入学した者（第一種のみ）、日本学術振興会特別研究員に採用されている者

(2) 総収入金額（配偶者分含む）が基準内であること

第一種：388万円以下

第二種：536万円以下

併用：284万円以下

※今年の年収額が昨年と大幅に異なる場合は見込み年収額で審査されます。

【保証形態】

人的保証（連帯保証人と保証人をつける）もしくは機関保証（保証会社に保証料を支払う）を選択できる

【奨学生の主な義務】

日本学生支援機構法等に準じ定期的な書類提出等の義務が生じます。

(1) 借用額の「返還誓約書」および各種証明書を提出する。

(2) 毎年12月に「奨学金継続」のための書類を学生課(学生生活担当)で受領し、インターネット入力を行う。失念すると廃止となる。

(3) 住所・氏名変更や留年・退学時には、所定の手続きを行う。

多少の制約はありますが、経済的理由により修学が困難な者にとっては有益な制度です。また、奨学金貸与期間中に特に優れた業績を挙げ

た者を対象に、表彰制度や返還免除制度も設けられています。詳細は、日本学生支援機構ホームページや「慶應義塾大学大学院奨学金案内（2019年度）」の冊子で確認して下さい。

2. 2019年度 慶應義塾大学院奨学金（医学研究科修士課程）

【研究のすゝめ奨学金】

対象者：原則、入学者全員

給付金額：年額 30 万・50 万・70 万円（審査により決定）

申請方法は、入学後のガイダンスで説明予定。

募集要項 奨学金名称	種類	金額	人員	申込資格	選考基準			期間
					成績	家計	人物	
慶應義塾大学大学院奨学金	給費	年額 600,000 円	若干名	大学院学生	優秀	日本学生支援機構の第1種家計基準に準じるが、その他家庭の事情等が考慮される場合がある。	優秀	1 か年
小泉信三記念大学院特別奨学金	給費	月額 30,000 円	若干名	大学院学生	優秀	—	優秀	1 か年
慶應義塾大学大学院医学研究科修士課程奨学金	給費	年額上限 1,000,000 円	若干名	医学研究科修士課程に2年生で、次年度に慶應義塾大学医学研究科博士課程へ進学する者	優秀	—	優秀	1 か年

※ 指定寄付奨学金や民間企業・地方公共団体の奨学金は、所定の掲示板で随時募集しますのでご確認下さい。

II 慶應義塾大学教育ローン制度

本学には、在學生を対象とした提携金融機関4行との「慶應義塾大学教育ローン制度」があります。金融機関の審査で承認されれば、この制度を利用することができます。融資条件等は金融機関によって異なりますので、事前に詳細をご確認下さい。資料は学生課窓口で配布しています。

（奨学金等のご相談）

孝養舎1階 学生課学生生活担当へお気軽にお越し下さい。

※ 「慶應義塾大学奨学金案内」の冊子はこちらの窓口で配布します。

※ 開室時間 8:45-16:45（土日祝日および義塾の定める休日を除く）

大学院医学研究科修士課程2019年度修正履修申告書

学籍番号: _____

学生氏名: _____ 印

指導教授: _____ 印

削除	追加	科目名	学期	担当者	単位
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		
			春・秋・通年		

※削除または追加欄に○を付して下さい。

医学研究科委員長 殿

学籍番号： _____

学生氏名： _____ 印

指導教授： _____ 印

他研究科修士課程等設置の授業科目の履修について

大学院学則第86条の5により、下記のとおり履修致したく、指導教授の承認の上申請致しますので、ご許可下さるようお願い申し上げます。

記

1 設置科目の担当研究科・学部名等

① 塾内機関の場合

_____ 研究科修士課程・ _____ 学部 _____ 研究所

② 塾外機関の場合

名称： _____

住所： _____ 電話： _____

2 履修希望科目名

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

科目名： _____ 単位(時間数)： _____ 開講学期(春・秋)

3 履修を必要とする理由

年 月 日

医学研究科委員長 殿

学籍番号： _____

学生氏名： _____ 印

指導教授： _____ 印

経営管理研究科との共通科目の単位認定について

経営管理研究科において取得済みの下記科目について、単位認定を申請いたしますので、ご配慮下さいますようお願い申し上げます。

記

科目： _____ 単位(時間数)： _____

科目： _____ 単位(時間数)： _____

科目： _____ 単位(時間数)： _____

科目： _____ 単位(時間数)： _____

科目： _____ 単位(時間数)： _____

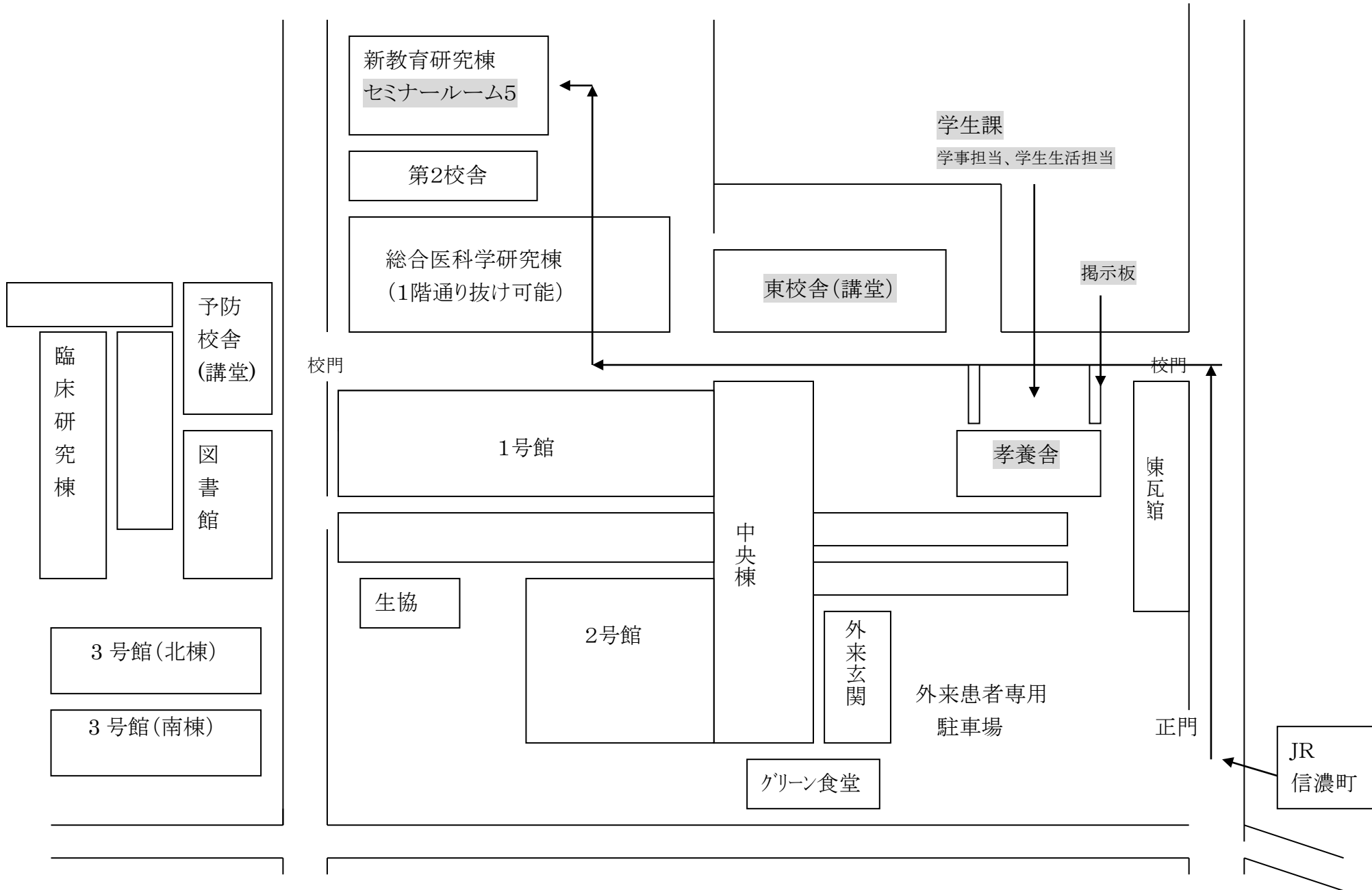
以上

※成績証明書を添付して下さい。

(学生課使用欄)

成績証明書	有 ・ 無
研究科委員会 承認日	年 月 日
決定事項	科目名： 単位数 評価 科目名： 単位数 評価
備 考	

信濃町キャンパス 講堂・掲示板 配置図



医学研究科修士課程

履修案内(教育要綱)

2019年度

慶應義塾大学大学院